



心の備えが命を救う

東日本大震災が発生してから1年半が過ぎようとした平成24年8月、政府主催の「中央防災会議」が開かれ、『南海トラフ巨大地震』への対策が検討されました。その会議の中で、「四国地方が大きく被災するならば、（発生時刻等の条件によって大きく結果は異なるが）最悪の場合、死者は226,000人」と想定されました。この数を香川県の人口に当てはめると、約5人に1人が命を落とすこととなります。この防災会議で「今後10年間で死者数を8割減らす」という目標が掲げられ、日本各地で『減災』への取組が進められてきました。10年の期限を目前にして、今月始めに再び防災会議が開かれ、今後の対策が検討されました。

さて、私たち和光中における防災意識の高まりはどうでしょうか。

和光中では、11月9日、2回目の避難訓練を行いました。今回は、放送等を担当する3人の教員を除いて誰も訓練があることを知らされていませんでした。



訓練終了後、教室に戻り、南海トラフ巨大地震に備えるために、「『危機』に直面した時の人間の心の動き」について学習しました。配られたプリントには次の内容が書かれていました。

- ◎ 突発的に災害や事故の直撃を受けたとき、人がとる行動は次の3つに分かれる。合計100人と考えて（ ）に人数を書こう。
- ① 落ち着いて行動できる人・・・（ ）人
 - ② 我を忘れて泣き叫ぶ人・・・（ ）人
 - ③ ショック状態で、何もできない人・・・（ ）人

これは、イギリスの心理学者ジョン・リーチ博士が発表した研究結果です。答えは、①が10～15、②が15、③が70～75です。震度7の地震に襲われたら歩くことさえできず、腹ばいになって揺れが収まるのを待つしかありません。その時に備えて、今のうちに災害が起こったときにどうすべきかを考えておかなければなりません。

続いて、学級担任はプリントに示された2枚の写真について次のような説明をしました。



〔栃木県「川治プリンスホテル火災」1980年〕



〔韓国「地下鉄放火事件」2003年〕

左の写真の火災が起こったとき、Aの団体客は「こんな昼間に火事が起こるはずはない。火災報知器の誤作動だろう。」と言い、ゆっくりお茶を飲んでいて逃げ遅れました。一方Bの団体はベルが鳴ったのですぐに様子を見に行き、火事に気づき、全員の命が助かりました。このように、「大丈夫、大したことはないだろう」と自動的に認識する『正常性バイアス(思い込み)』という心の機能を、誰もがもっています。

次に右の写真です。放火直後、車内に煙が充満してきていたにもかかわらず、乗客たちはすぐに行動しようとはしませんでした。後で、助かった人にたずねると、「最初は、まさかこんな大変な火災が発生しているとは思わなかった。みんながじっとしているので自分もじっとしていた。誰かが『火事だ!』と言ったのであわてて窓ガラスを割って逃げた。」と答えました。このように、人間は、経験したことのない出来事に直面したときに、多数の人の行動に左右されてしまう心の機能『多数派同調バイアス』をもっているのです。これは、「どうしたらいいかわからないときに、他の人と同じ行動を取ることでピンチを乗り越えてきた経験に心が支配されるために起こる」と言われます。

【生徒の感想（一部抜粋）】

- ・ 経験したことのないような災害にそなえて、避難する場所などいろいろなパターンを想像しておくで考えられる、選べる範囲が増えるので、人に流されにくくなると思います。〔1年生〕
- ・ ただの訓練だからといってふざけたりまじめに取り組まなかったりしたら、本当に災害が起きた時などに行動できないことが分かりました。みんなに合わせれば大丈夫じゃなくて、本当にみんなが正解なのかを素早く判断して対応できるようにしたいです。〔1年生〕
- ・ 災害が起きたときにどんなふうに行動していいかが分かるように、話し合って逃げる場所を確かめたいです。災害が起こってしまっても冷静に動けるようにしたいです。〔2年生〕
- ・ 助かった人は、何かが起きた時の『最悪』を想定して行動していることがわかった。小さな油断は大きな後悔を生むことを知った。後悔がないよう行動したい。〔2年生〕
- ・ 自分も火災報知器の誤報を経験したことがあるけれど、その時は2回目で逃げたので、次にそういう場面に出くわしたら1回目で逃げられるようにしたいです。〔2年生〕
- ・ 心のバイアスによって、一つの行動が命取りになるので、起こったときにどうすればよいかなどを常に頭に入れておく必要があると思いました。〔3年生〕
- ・ 災害にあったときに落ち着いて行動できる人が意外と少なかったです。今回の避難訓練のとおり行動すると3年生は全員助かると思いました。思い込みってすごいんだなと思いました。〔3年生〕
- ・ 考えることを止めた人がパニックになり、バイアスにおちいると思うので、どう動くかを（一度周りを忘れて）考えてみる。〔3年生〕

保護者の皆様へ（お願い）

生徒アンケート「学校にいる時間以外（登下校中や休日）で、地震などの災害に遭遇したときに『どこへ避難するか』等について家族で話し合ったことがありますか」の結果、1年生：「ある 50%、ない 50%」 2年生：「ある 56.2%、ない 43.8%」 3年生：「ある 15.0%、ない 85.0%」でした。

災害時に命を守る行動が取れるようご家庭で避難ルートや避難場所等についてお話しくださいますようよろしくお願いいたします。

最後に、市から支給された災害時の備蓄食料品3点（パン、白米、混ぜご飯）を本日生徒全員が持ち帰っております。賞味期限まで十分な日数がないためご迷惑をおかけしますが、ご家族でご賞味いただければ幸いです。